

山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催 第3回緩和ケア看護師教育プログラム開催報告

緩和ケアセンター事務局

令和元年5月18日、山口大学医学部附属病院新中央診療棟多目的室1、多目的室2において、山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター主催第3回緩和ケア看護師教育プログラムを、長門総合病院、都志見病院の共催で開催しました。

緩和ケア看護師教育プログラムとは、緩和ケアを担う看護師を育成するために日本看護協会が作成した「看護師に対する緩和ケア教育テキスト」に基づいた緩和ケアの基礎について学ぶ教育プログラムです。

院内外から5名の認定看護師をファシリテーターとして迎え、山口県内の地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、特定領域がん診療連携推進病院、宇部・小野田・美祢圏域の経験年数1年以上の看護師23名の修了者となりました。

研修は講義だけでなく、グループで行う事例検討、3人で看護師、患者役、観察者役を交替で演じるロールプレイも組み込まれており、皆さん講義を真剣に聴講し、グループワークやロールプレイでは、活発な意見交換が行われ、意欲の高さを感じることができました。

研修終了後のアンケートでは、「講義、ロールプレイやグループワークをとおして、緩和ケアについて理解を深めることができた。部署でも今回学んだことを活かせるように日々勉強していきたいと思いました。」「基本的なコミュニケーションや、薬の作用から応用まであり勉強になりました。日々の看護に活かしていきたいです」「緩和ケアについてたくさんの事を知ることができました。現場で遭遇した場面で今日の事を思い出しながら看護できるようにしたいです。」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事修了することが出来ました。

本プログラムは来年も開催予定です。より多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

《研修会風景》



